

日時：2021 年 11 月 15 日（月）17:00～19:00

場所：Zoom を用いたリモート会議

出席者：坂本慎一（主査）、河原塚透（幹事）、平栗靖浩（幹事）、會田祐、池上雅之、古賀貴士、佐久間哲哉、佐藤洋、杉江聡、辻村壮平、富来礼次、富田隆太、中川武彦、羽入敏樹（前主査）、平光厚雄、星和磨（敬称略）

欠席者：石渡智秋、中澤真司、浜田幸雄（敬称略）

提出資料：

2021年度第3回議事次第

資料3-0 2021年度第3回音環境運営委員会議事録（案）

資料3-1 環境工学本委員会（第3回）議題

資料3-2 環境工学本委員会（第3回）資料

資料3-3 No. 3-10（若手優秀発表選考結果）

資料3-4 No. 3-18（別冊資料）

議題：

前回議事録（2021年度第2回）を確認した。一部修正後承認（資料 No.3-0）

p.1 Microsoft Teams → Zoom

1) 環境工学本委員会の報告（資料 No.3-1,3-2,3-3,3-4）

- ・ 卒業論文等顕彰事業委員会委員の推薦：岡本先生（大分大学）を推薦
- ・ AIJESの「絶版」と「廃版」の区別
- ・ 委員の委嘱・解嘱：会員外の委員委嘱は入会を働きかけていただくことが必要
- ・ 大賞について：複数の委員会および支部で協力したほうが推薦しやすいため、環境工学委員会内で審議する時期や他の委員会との連携について今後検討
- ・ 小委員会活動成果報告書の提出依頼：年明け2月15日が締め切りとなっているため、各主査は1週間前を目途に所定フォルダに提出
- ・ 環境工学連合会講演会：5月31日、日本学術会議講堂、伊香賀先生（慶応大学）
- ・ 2022年度大賞候補の推薦：2名の推薦があった。音からは橘先生。熱と設備の合同推薦として石野先生（都立大）。選挙を行い7：16で石野先生となった。今年安岡先生が授賞したばかりというのが背景。来年も継続して橘先生を推薦。戦略的に他の委員会への根回しも必要。
- ・ 学会賞選考委員の推薦：環境系から2人。その内1人が任期を迎え交代となる。分野のローテーションにより音から推薦 → 羽入先生を推薦。
- ・ 論文集委員会委員の推薦：第一候補に豊田先生、第二候補に大谷先生
- ・ 技術報告集委員会委員の推薦：佐藤先生が留任
- ・ 2021年度若手優秀発表賞：どの分野も選考比率10～11%が守られていた。
- ・ 2022年度大会OSテーマ：音環境からは「床衝撃音に関する最近の話題」固体音小委
- ・ 大会細分類・細々分類：音環境は変更なし
- ・ 研究協議会テーマ：カーボンニュートラル実現に向けて 2050年まで、そして2050年以降の課題と展望
- ・ 若手優秀発表賞実施要綱：これまで通りであるがなにかあれば事務局へ
- ・ 刊行委員会引継ぎ事項：AIJESは企画であるため電子書籍の少数数発行も承認。流通経路として日本建築学会ホームページからのダウンロード販売が追加
- ・ 直営刊行物の絶版、処分の手続きに関する内規：絶版する、しないの2択であったが、一部処分が追加された。
- ・ AIJES：廃止の手続きが明確化された。

- ・ 小委員会・ワーキンググループ廃止/設置申請：10月20日締め切りで小委員会廃止14、設置10、WG廃止7、設置7、廃止が多いのは企画刊行運営委員会で本が刊行されたため。音環境では2年経ったため吸音設計AIJES検討WG（廃止）、来年度から新体制で設置予定
- ・ 催し物：シンポジウム「建築音響測定への数値シミュレーションの活用とその可能性」、3月1日開催が承認された。完全オンライン
- ・ 予算の使途に対する要望：要望書が学術委員会に提出された
- ・ 環境工学本委員会年間予算の配分案：音環境は前年度比0%

2) 審議事項

- ・ 学会賞選考委員の推薦：環境系から2人。その内1人が任期を迎え交代となる。分野のローテーションにより音から推薦 → 羽入先生を推薦。
- ・ 論文集委員会委員の推薦：第一候補に豊田先生、第二候補に大谷先生

3) 各小委員会・WGの活動報告

① 固体音小委員会

- ・ 第3回を10月13日に開催。OSの内容を討議。インピーダンス予測手法の比較。CLT実験棟におけるボールとタイヤ加振源比較の情報提供が委員よりあった。

② 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会

- ・ 主査欠席

③ 建築音響測定法小委員会

- ・ 開催無し。次回11月17日開催予定。シンポジウムに向けた議論を予定。

④ 室内音響小委員会

- ・ 開催なし、メールにて啓発コンテンツWGのNote発信内容の確認。
- ・ こどものためのWG：WG全体としての活動はなし、騒音制御工学会秋季研究発表会OSにて企画と発表、日本LD学会大会自主シンポジウムにて発表。
- ・ 啓発企画コンテンツWG：10/12 WG開催、note発信方法や管理方法の詳細決定、記事依頼資料の作成、記事発行、啓発イベント第2弾の検討開始「(仮)音体験ツアー」
- ・ 吸音設計AIJESWG：新体制での来期活動についての検討

⑤ 音響数値解析小委員会

- ・ 開催無し。次回12月後半に開催予定。シンポジウムの開催日が3月1日で確定。オンラインのため参加費を3,000円から2,000円にした。11月26日に会告締切

⑥ 音環境規準検討小委員会

- ・ 11月10日に第4回を開催。AIJES刊行WG立ち上げに向け3月の設置申請提出準備のため11月29日ミーティングを開催。集合住宅以外のAIJES刊行に向けた議論も開始。日常不便を感じていることを切り口に整理を進めている。第5回を1月7日、第6回を3月7日に開催予定

⑦ 企画・広報 WG

- ・ 第3回を10月7日に開催。11月2日幹事打ち合わせ。次回11月末～12月初旬で調整中。今後の活動内容について広く議論。この分野を社会に広く知ってもらうこと、情報発信をすることが命題。見学会などの企画も検討対象。

⑧ その他

- ・ 特になし

4) 各他学会・研究会の予定

- ① 日本音響学会・建築音響研究会：12/18 IYS2020+関連行事として高校生以上の一般の方を対象に実験室で音の体験など、一般講演、オンライン開催。1/27 戸田建設の新しい実験室見学+一般講演、オンライン開催
- ② 日本音響学会・騒音振動研究会：12/20 岡山、1/19 宇都宮。1/21 茨城、詳細、その他HP 参照

5) フリーディスカッション

- ・音環境研究の社会還元促進について意見交換を行った。主な意見は以下の通り。
 - ・企画・広報WGでもこちらの意見を反映させたい。今は提案できないが、社会還元企画・広報WGからも提案したい。
 - ・建築的に重要な遮音・吸音に関して、これから社会に発信し、認知してもらう段階であるが、建築学会ではこれまでもシンポジウムなどの開催があるが、その他の切り口でアクションを起こしたい。
 - ・オンラインツールを用いて何かできないか。音関係者にも便利なツールであり、一般の方にもアピールしやすく受け入れてもらいやすいのでは。
 - ・動画のコンテンツや配信環境が整備されつつあり動画サイトなど無料で使えるものもある。コンテンツを蓄積していき一般の方々に配信していく方法もありえる。
 - ・ターゲットをどこにするのが重要である。音関係者に対するコンテンツやイベントなどは充実してきていると思われる。音に関係ない方への情報発信が重要ではないか。
 - ・自宅防音室の作り方などですでに動画サイトにアップされている。身近なテーマをあげることで需要を掘り起こせる可能性があり、専門家目線で安価で高性能なものができるれば、興味を引くことができるのではないか。
 - ・良い発想ではあるが実際手を動かすとすると課題が多そう。
 - ・すでにアップされている動画サイトとコラボして改善点などをアドバイスするなど考えられる。
 - ・アカデミックスタンダードほどではないが、一般受けスタンダード的なものが必要では。
 - ・写真などあるが動画配信に耐えうる仕様のものがない。本業にしているものは図面なども出しにくいのでは。自社でコンテンツを作っているものとは別に学会で作るとなるとどうなるのか。
 - ・一般の方が求めているものと音の専門家が考えているもののギャップ、レベルを整理する必要があるのでは。
 - ・防音のイメージでも一般の方は少しの改善でも良いと思っているかもしれない。
 - ・専門家として現象の解説、理論など付属の動画を用意してはどうか。
 - ・高校の模擬講義で、実際に響きの違いで明瞭度が変わるなど音を体験させると、音に興味を持ってもらえるという経験から、事例などのコンテンツを揃え、体験させることが必要。学会などでコンテンツを揃えれば啓蒙活動になるのでは。
 - ・良く活用しているコンテンツは技報堂から出版されているサウンドライブラリー、橘先生退官時のスライドであり、著作権フリーで使えるものを学会から出せないか検討することも必要では。
 - ・企画広報委員会では、動画配信は影響力の強いインフルエンサーにまかせ、学会でオーソライズされたHPを用意してそこを引用してもらうような仕掛け作りを考えてはどうかという意見があった。
 - ・音に全く興味のない人でも入り込めるようなコンテンツが必要
 - ・きっかけ、アプローチなど入口の整理が必要
 - ・各小委員会、ワーキングなどで検討してきたものの成果をAIJESだけでなく、うまく利用しながら発信できればよいのでは。
 - ・SMILE発刊から20年近く経つが、専門家以外存在を知らない。時代はWEB配信なのでそれに合うようなものを作る新しい企画を立てるというのもあり得る。
 - ・建築家に向けたスター建築家が語る「音に配慮したら素晴らしい空間ができた」というような内容のシンポジウムができれば集客できて良いのでは。音楽ホールがわかりやすいがそれ以外でできればなお良い。
 - ・設計用パンフレットなど書籍が更新されていない。運営委員会で方針を考えていく必要がある。
 - ・日建連でも社会貢献活動の一環として音の留意点などをまとめHPに公開しているので全体として考えていく必要がある。
 - ・書籍のアップデートはこれまで通りのボトムアップでは進まない。トップダウンが必要ではないか。
- いろいろな意見がでたので、星先生、辻村先生、平栗先生などと話をしたい。

6) 次回以降の予定

第4回：2022年3月3日（木）17:00-19:00（本委員会 3/1）

以上